

「社会人として自立していくための就労支援」

一人一人の良さを伸ばし、共生社会で主体的に生きる力を育むキャリア教育

兵庫県立西はりま特別支援学校

主幹教諭 宍戸 成光

はじめに

子どもは、いずれ親から自立し、自らの力で生きていく時期が来る。自立していく上で、障害の有無に関係なく職業に就く等、何らかの形で社会に貢献する力が求められる。また、人と人との交わりの中で、積極的に生きていくために、コミュニケーション能力や基本的マナー等、社会人としての資質・能力を十分に引き出せるよう、小学部入学時点から意図的・計画的に取り組むことが必要である。本来、進路指導は進学や就職に焦点を絞らず、広く社会人として自立していくために必要な能力や態度を身につけることを重視し、子どもの「生きる力」を育てることを目的としている。従って、教育活動の中で、挨拶・返事・礼儀等を定着させ、ルールやマナーを意識しながら周りの人と円滑な人間関係を築くことができる力を育むことが大切である。

1 取組の内容・方法

(1) 作業学習

高等部では、卒業後に事業所等で必要となる働く意欲や態度を育成する目的で、7つの作業班（環境整備・農園・食品加工・革細工・手芸・紙すき・陶芸）に分かれ、週6時間作業学習に取り組んでいる。事業所等での仕事や作業に必要な体力を身につけるとともに、挨拶、報告、連絡、相談（質問）ができるように支援している。原則として3年間で3つの作業班を体験することで卒業後の進路先での必要な作業能力を身につけるよう取り組んでいる。

作業学習（陶芸班）



近隣施設での販売学習



(2) 販売学習

製作物の販売（県民局、総合リハビリテーションセンター等）を行うことで接客、お金の計算等の力も身につけている。

(3) 授業「職業」

授業「職業」では、「自ら挨拶ができ、言葉遣い等の接遇態度を身につけ、働くことの喜びや大切さを味わう」を目標に挨拶・返事・礼儀等を定着させ、ルールやマナーを意識しながら取り組んでいる。

(4) 技能検定に向けた取組県教委が実施しているビルクリーニング・喫茶サービス・物流・品出しを授業に取り入れ、卒業後の社会生活や就労を意識し、取り組んでいる。

技能検定（喫茶サービス部門）



ビルクリーニングや喫茶サービス部門では、練習の成果があり、技能検定に挑戦した生徒全員が認定証を取得することができた。

(5) 外部講師を招いて

地元の企業の方に清掃についての講話と実技講習（トイレ清掃、窓清掃）をしていただくことで、プロの清掃道具の使い方や手順を学び、卒業後の社会生活に生かせるようになってきている。また、プロの技を学ぶことで、掃除に対する意欲が高まり、家庭での掃除にも生かすことができるようになってきている。

清掃講習（トイレ清掃）



清掃講習（窓清掃）



外部講師によるメイク講習



(6) メイク講習

身だしなみの一環として就労をめざす女子生徒対象に本格的なメイク講習を行っている。

(7) 悪徳商法に対する心構えを学ぶ

近年の情報化時代でのネットやスマホ等のトラブルの対処方法についてロールプレイを取り入れるなど実践的に学べるよう取り組んだ。

ロールプレイをすることで、トラブルに、巻き込まれた時の対処方法をより具体的に学ぶことができた。

(8) 校内実習



校内実習では、60分間継続した作業（原則として立ち作業）を行うことにより、手先の巧緻性や集中力・持続力等を身につけるため取り組んでいる。

校内実習（タオルたたみ）

(9) 卒業後の進路を見据えた実習

事業所見学（高等部1年生）

卒業生が利用している事業所に行き、先輩の案内のもと働く姿を見学し、自らも体験する取組を行っている。

体験実習（高等部2年生）

責任ややりがいを感じることで就労への意欲を喚起し、積極的に社会参加をしようとする意識を高めるため、生徒の実態把握をした上で生徒の特性に合った事業所を選び、体験実習を行っている。初めての企業実習に戸惑うことも多いが、職場での挨拶やコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。

職場体験実習



職場結合実習（高等部3年生）高等部2年生の体験実習で学んだ社会性やマナー等を大切に、更に実習の成果を十分に発揮し、実習先での就労・利用に結びつけるために結合実習を行っている。結合実習は進路を見据えた大切な実習ということもあり、緊張感の中で行われたが、やり遂げた充実感は生徒の自信となり、卒業後の進路につながる実りある実習となった。

職場結合実習



(10) 資格取得に向けて

漢字能力検定をはじめ特別教育講習（フォークリフト、油圧ショベル）、自動車運転免許の多業種資格取得に取り組むことで就労意欲の向上をめざしている。

特別教育講習（フォークリフト）



近隣の特別支援学校と連携し、フォークリフト等の資格取得に向け取り組んだ。受講（講義・実技・試験）した生徒全員合格することができた。

2 取組の成果

授業「職業」を充実し、高等部3年間で進路を見据えた系統立てた実習等を行うことにより、社会人としての資質・能力が向上し、進路に向けた意欲も高まってきた。販売学習では、外部販売を数多く経験することで、接客のマナー等についての認識が深まり、敬語や丁寧な言葉で接客ができるようになってきた。また、全ての授業の始まりでは「お願いします」、終わりには「ありがとうございました」とはっきり言うことや「礼」と言った後で教師の目を見て礼をすることが社会人としての基礎となることも、高等部教員全員が共通理解をして実践してきた。日常において挨拶を大事にすることにより、社会（職場や施設）で過ごす中においても、円滑な人間関係を築くことができるようになってきている。

3 課題及び今後の取組の方向

学校と家庭が協力し、望ましい職業観や職業に関する知識を身につけさせ、自己の個性や特性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てることが必要である。今後も産業界等関係機関と連携し、児童生徒の個性を大切に、個々のスキルアップをめざして、日々の教育活動に取り組んでいきたいと考えている。そして、日々の授業の中でコミュニケーション能力や基本的なマナー、作業能力等の力を身につけさせ、卒業後社会人として自立していけるように支援していきたい。